

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成27年度採択分）
「編集・査読体制の国際化およびジャーナルプロモーション強化を基軸とした国際情報発信強化」
（課題番号：15HP2005）

学術団体名：日本生理人類学会
学術刊行物の名称：Journal of Physiological Anthropology
事業期間：平成27年度～平成31年度

1 取組の概要

- ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

本取組は日本生理人類学会の英文誌であるJournal of Physiological Anthropology (JPA) に掲載される生理人類学研究を広く国際発信することを目的とする。ヒトの生物学的適応能を踏まえて現代人やその生活環境に提言する生理人類学研究はオリジナリティが高く、広く情報発信することで、生理人類学分野の国際的なリーダーとしての地位を築くことが可能となる。

- ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

1. **編集体制の国際化**: Editors、Editorial Boardに海外エディター比率を60%に増加、国際編集会議の開催。
2. **査読体制の国際化**: JPAの関連分野の海外研究者を査読者として招聘し、海外査読者比率を60%に増加。
3. **新たな投稿査読システムの導入**: 編集・査読の国際化に備え、査読期間を2ヶ月に短縮。
4. **ジャーナルプロモーションの国際展開**: ①海外学術団体とのジョイントセッション・シンポジウムの企画、②海外の生理人類学関連学会でのブース出展やジャーナルのHP、SNSを通じた広報、③アジア地域で、生理人類学分野に関連する研究組織・研究者との研究交流を促進。

以上の活動による数値目標は下記の通りである。

- a) ジャーナルへのアクセス数を月2,000件→10,000件
- b) 投稿数を100編→200編、掲載数を50編→100編
- c) インパクトファクター値を1.16→3.0



JPAのホームページ

2 目標の達成状況

- ・現在までの目標の達成状況

1. **編集体制の国際化**: EditorsおよびEditorial Boardの海外エディター比率が各々50%、57%に増加し、2015年（東京）、2016年（クロアチア）、2017年（英国）に国際編集会議を開催。
2. **査読体制の国際化**: 現在の海外査読者比率は40%となっている。
3. **新たな投稿・査読システムの導入**: 平成27年にEditorial Managerを導入し、編集事務を担当するJournal Editorial Officeをフィリピンに置き、Editorial Managerと補完しながら運用。First decisionまでが30日、掲載までが100日に短縮。
4. **ジャーナルプロモーションの国際展開**: ①2015年～2017年の毎年、国際学会でのジョイントセッション実施。②国際学会やシンポジウム等で、リーフレットや別刷りを配布。ジャーナルのHP、SNSを通じた広報活動を実施。③アジアの海外研究者を訪問し（中国、韓国、台湾、香港、マレーシア、シンガポール、タイ）、2016年には、マレーシア、韓国、福岡でアジアの研究者とのジョイントシンポジウムやセミナーを開催した。これらの活動が投稿数や掲載数に反映されるにはまだ時間を要すると思われるが、ジャーナルアクセス数は月8,000件に増加、インパクトファクター値は1.250に増加し、広報活動の効果は確実にあらわれている。

- ・今後の計画

編集および査読の国際化はこのまま継続し、当初目標の60%達成を目指す。また、ジャーナルプロモーションの国際展開やさらなる査読の短縮、ジョイントシンポジウムの開催やアジア研究者との交流を通じて、投稿数や掲載数の増加や、インパクトファクター値のさらなる向上をめざす。